



**2020年3月期 第2四半期
決算補足説明資料**

2019年11月5日(火)

**ウェーブブロックホールディングス株式会社
証券コード：7940
(東証一部)**

- 当社のセグメントは、従来「インテリア事業」、「編織事業」、「産業資材・包材事業」および「アドバンステクノロジー事業」の4区分としておりましたが、本年1月に実施した組織再編に伴い、第1四半期連結会計期間から、従来の4区分を改め、「インテリア事業」、「**マテリアルソリューション事業**」および「アドバンステクノロジー事業」の3区分に変更しました。
- これにより、**2019年3月期のセグメント情報は、従来のセグメント区分から、変更後のセグメント区分に組み替えた数値として**おります

■ 売上高 14,903百万円

- 前年同期(14,364百万円)比+3.8%
- 第2四半期累計予想(14,500百万円)比+2.8%
- 全事業セグメントにおいて、前年同期比プラスを達成

■ 営業利益 1,004百万円

- 前年同期(861百万円)比+16.5%
- 第2四半期累計予想(940百万円)比+6.8%
- 原材料価格上昇分の売価転嫁値上げや、相対的に高利益率な製品の売上増加、生産効率の改善等による原価低減が貢献

営業利益が大幅増加にもかかわらず、経常利益および当期純利益が減少したのは、負ののれんの償却額(営業外利益に計上)が前年同期比で176百万円減少したことによるもの(負ののれんは第2四半期末で残高「0」に)

(単位:百万円)

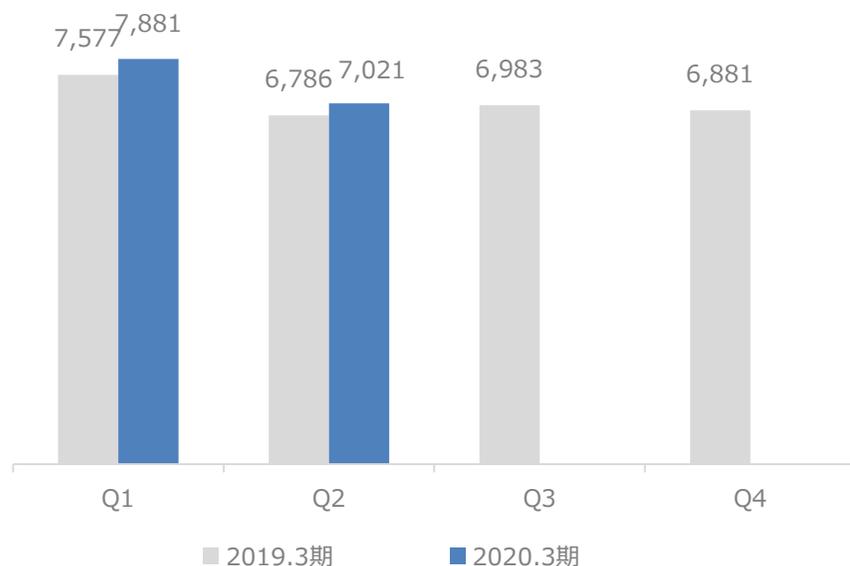
	2019年3月期 第2四半期累計 (実績)	2020年3月期 第2四半期累計 (実績)	前年同期比 増減率	2020年3月期 第2四半期累計 (予想)	達成率	2020年3月期 通期 (予想)	進捗率
売上高	14,364	14,903	+3.8%	14,500	102.8%	29,000	51.4%
営業利益	861	1,004	+16.5%	940	106.8%	1,800	55.8%
経常利益	1,082	985	△9.0%	930	105.9%	1,780	55.3%
親会社株主に帰属 する当期純利益	795	694	△12.7%	630	110.3%	1,200	57.9%
1株あたり 当期純利益(円) ¹	79.90	72.88	-	66.08	-	125.85	-
EBITDA ²	1,328	1,521	-	-	-	-	-

1. 発行済株式総数から自己株式等を控除した期中平均株式数により計算しています。期中平均株式数は、2019年3月期第2四半期は9,962,461株、2020年3月期第2四半期は9,534,271株、2020年3月期累計は、9,535,431株(予想)です。

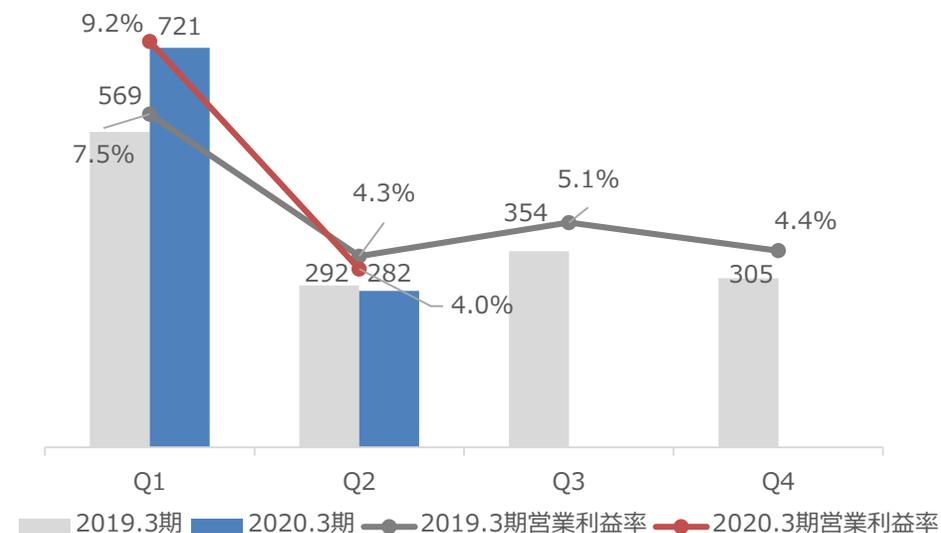
2. EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

売上高・営業利益ともに、前期および期初計画に対し順調に推移

売上高



営業利益・営業利益率



- 今期第1四半期の営業利益および営業利益率が高いのは、原材料価格上昇分の売価転嫁値上げや、相対的に高利益率な製品の売上増加等によるもの
- 第2四半期の前期比において、売上高は増加も営業利益および営業利益率が減少。これは、インテリア事業およびマテリアルソリューション事業は好調だったものの、アドバンステクノロジー事業の営業利益で△64百万円、営業利益率で8ポイント減少したため

連結貸借対照表

(単位：百万円)

資産	2019年 3月期末	2020年3月期 第2四半期 (実績)	増減	概要
流動資産	16,367	16,439	+72	
現預金	2,044	3,086	+1,041	
営業債権	7,727	7,098	△ 628	
棚卸資産	6,370	6,017	△ 352	
その他	225	237	+11	
固定資産	13,113	13,036	△ 77	
有形・無形固定資産	11,734	11,667	△ 67	
その他	1,379	1,369	△ 10	
資産合計	29,481	29,476	△ 5	
負債・純資産	2019年 3月期末	2020年3月期 第2四半期 (実績)	増減	概要
負債	18,204	17,662	△ 541	
営業債務	4,412	3,779	△ 632	
有利子負債	9,788	9,498	△ 289	借入金・社債の返済
負ののれん	18	-	△ 18	負ののれんの償却終了
退職給付に係る負債	2,123	2,167	+44	
その他	1,862	2,216	+354	
純資産	11,277	11,813	+536	
株主資本	11,106	11,669	+562	当期純利益の増加+694 配当金△134
その他	171	144	△ 26	自己資本比率 38.2%→40.0%

キャッシュ・フローの状況

(単位：百万円)

	2019年3月期 第2四半期累計 (実績)	2020年3月期 第2四半期累計 (実績)	増減	概要
税金等調整前当期純利益	1,081	1,016	△ 65	
減価償却費	466	517	+50	
負ののれん償却額	△ 194	△ 18	+176	
退職給付引当金	△ 16	66	+83	
運転資本増減	19	338	+318	
法人税等支払額	△ 430	△ 206	+224	
その他	15	20	+5	
営業キャッシュ・フロー	941	1,735	+793	
固定資産の収支	△ 357	△ 352	+4	
投資有価証券の収支	△ 1	95	+97	
その他	0	0	0	
投資キャッシュ・フロー	△ 359	△ 256	+102	
フリーキャッシュ・フロー	582	1,478	+813	
借入金・社債の収支	△ 319	△ 289	+30	
自己株式の収支	△ 184	-	+184	
ストックオプション行使による収入	32	1	△ 31	
配当金の支払額	△ 159	△ 134	+25	
その他	△ 18	△ 20	△ 1	
財務キャッシュ・フロー	△ 649	△ 442	+206	

基本方針

- 配当性向※：20%から30%を目安に、安定的な配当を実行・維持する

2020年3月期 配当

- 第2四半期末、期末でそれぞれ1株あたり15円(通期30円)
- 負ののれん償却額の影響を考慮した配当性向※は**24.4%**

	1株あたり配当金(円)		
	第2四半期末	期 末	合 計
2019年3月期(実績)	14円	14円	28円
2020年3月期	15円	15円 (予想)	30円 (予想)

【参考】

	負ののれん償却額控除後の 当期純利益	年間配当額	負ののれん償却額の 影響を考慮した 配当性向※
2018年3月期(実績)	1,206百万円	28円	23.1%
2019年3月期(実績)	1,040百万円	28円	26.2%
2020年3月期(予想)	1,181百万円	30円	24.4%

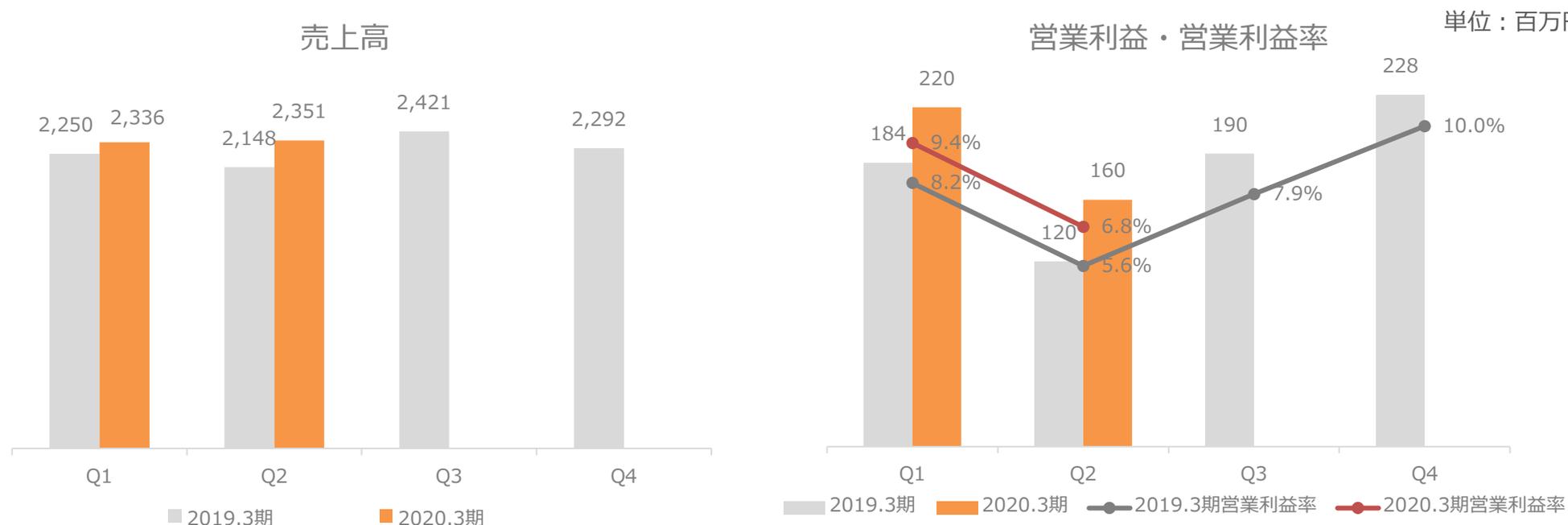
※ 負ののれん償却額の影響を考慮した配当性向

$$= \frac{\text{配当総額}}{\text{（親会社株主に帰属する当期純利益 - 負ののれん償却額）}}$$

セグメント別売上高・営業利益

(単位：百万円)

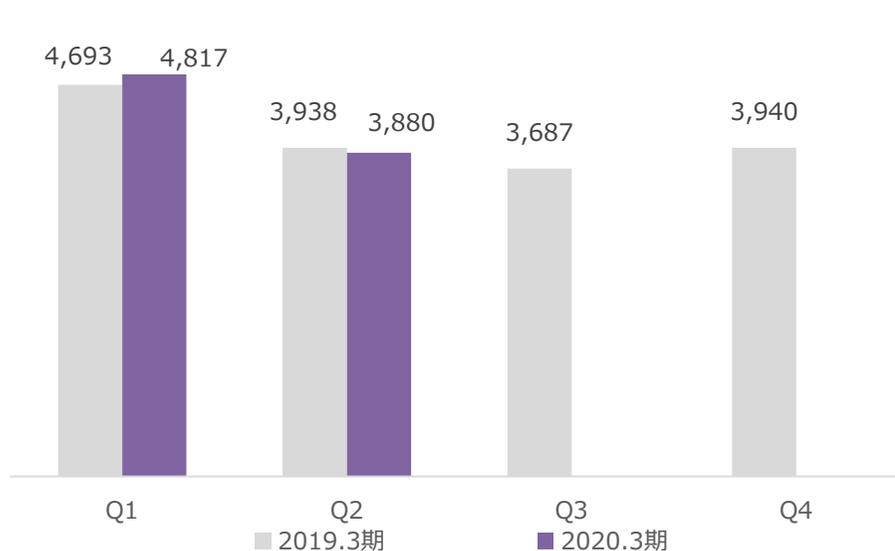
	2019年3月期 第2四半期累計 (実績)	2020年3月期 第2四半期累計 (実績)	前年同期比 増減率	2020年3月期 通期 (予想)	進捗率
売上高	14,364	14,903	+3.8%	29,000	51.4%
インテリア	4,398	4,687	+6.6%	9,600	48.8%
マテリアルソリューション (旧産業資材・包材事業および旧編織事業)	8,632	8,697	+0.7%	16,300	53.4%
アドバンステクノロジー	1,701	1,819	+6.9%	3,800	47.9%
その他の	△ 369	△ 300		△ 700	
営業利益	861	1,004	+16.5%	1,800	55.8%
インテリア	305	381	+24.9%	830	46.0%
マテリアルソリューション (旧産業資材・包材事業および旧編織事業)	601	742	+23.6%	1,010	73.6%
アドバンステクノロジー	156	126	△18.9%	430	29.5%
その他の	△ 201	△ 247		△ 470	



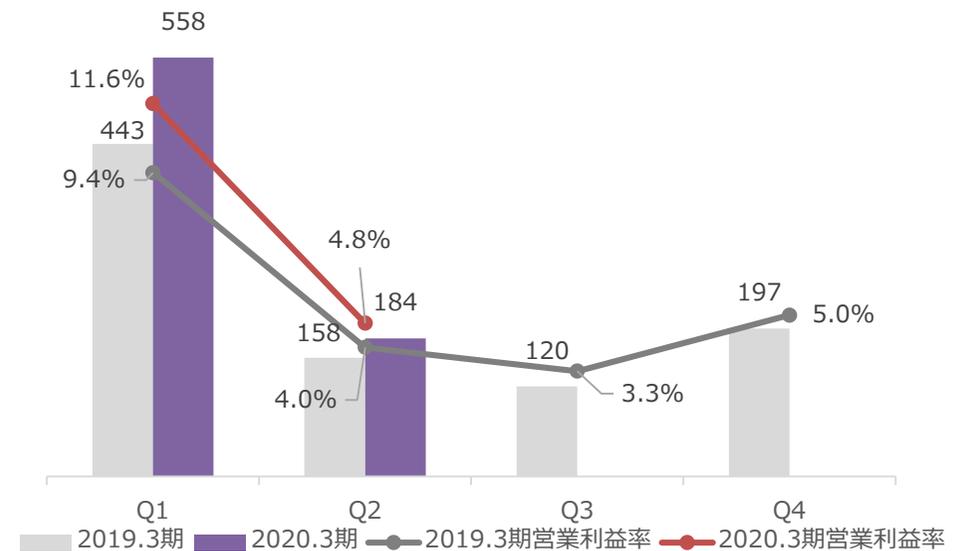
- (株)サンゲツ向け壁紙売上高は前年同期比+10%と引き続き好調
- 当社グループ製品の掲載点数が増加した(株)サンゲツの新中級品見本帳FINE(本年5月配付)、および、新量産品見本帳SP(本年6月配付)が徐々に市場に浸透
- 前期第1四半期に起きた(株)サンゲツの見本帳配付遅れにより低迷した中級品壁紙の販売数量も、前年同期比プラスに
- 昨年秋に実施した材料費等のコストアップ分の売価転嫁や、継続的なコスト削減努力が奏功し、営業利益率が前年同期比でアップ(6.9%→8.1%)
- 第3四半期以降は物流費や産廃費等のコストアップが懸念されるものの、売上増加と更なる製造効率向上等により、売上高、営業利益ともに通期予想達成を見込む

単位：百万円

売上高



営業利益・営業利益率



- リビングソリューション(生活資材から名称変更)：

天候不順による園芸向けの需要減があったものの、今シーズンより取引が再開した大手ホームセンター向け販売が好調に推移。今年度の需要期は終了。第3四半期以降は来年3月のシーズンインに向けた営業活動に注力

- ビルディングソリューションおよびインダストリアルソリューション(産業資材から名称変更)：

工事用シートやアルミサッシメーカー向けの網戸用品、大手テーマパーク向け衣料販売が売上を牽引。加えて、相対的に利益率の高い、工場向け間仕切りシートや、ショッピングセンター向け防煙垂壁用途の高透明不燃シート等の売上が堅調に推移し、利益の底上げに貢献。第3四半期以降も着実な伸びに期待

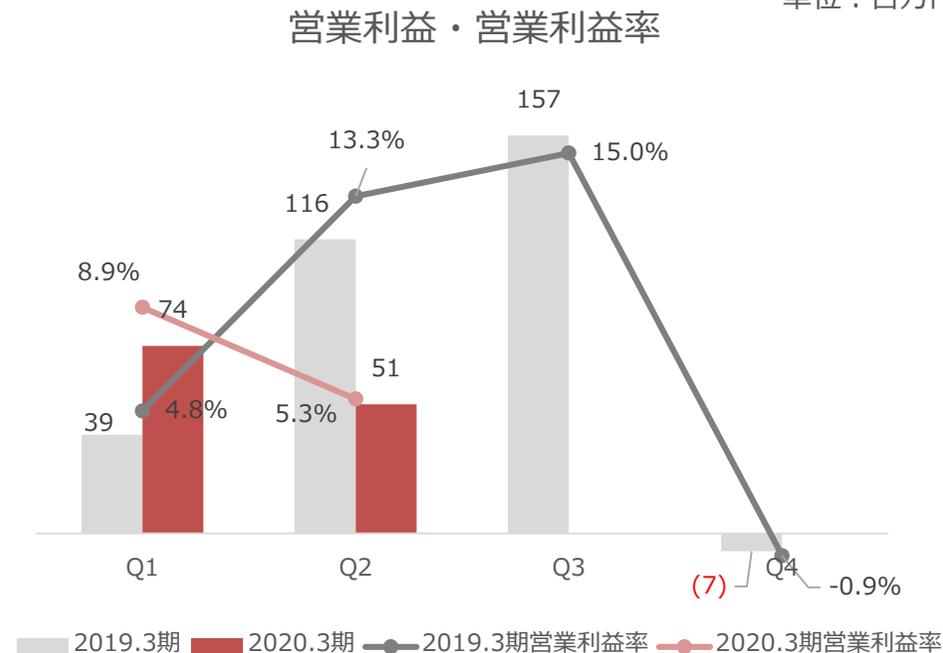
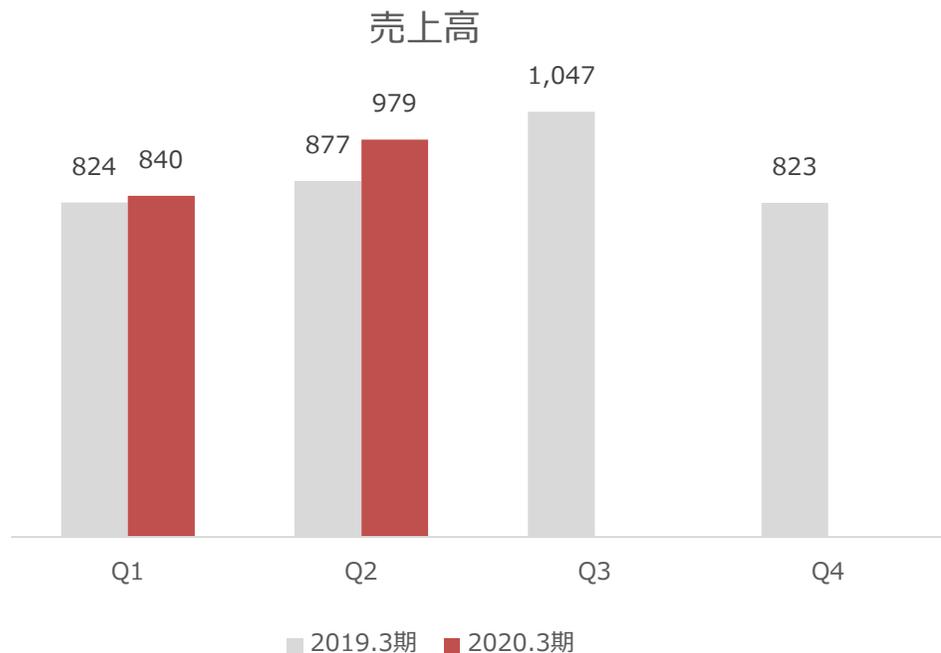
- パッケージングソリューション(包材から名称変更)：

前期において影響を受けた原材料価格上昇分の売価への転嫁、および、採算性改善のための選択と集中が大きく寄与し、売上高伸長の上、収益率も改善。第3四半期以降も売上高伸長、収益改善に期待

- アグリソリューション(農業資材から名称変更)：

長梅雨や日照不足等により需要減少。第3四半期以降は台風等の自然災害の復興需要の取り込みや、秋冬商材の販売に注力

単位：百万円



- 金属調加飾フィルム：

売上を伸ばしてきた中国市場では、米中貿易摩擦の長期化による中国国内景気の低迷、排ガス規制強化により生じた生産調整、および、中古車市場の台頭等により、中国自動車生産台数が前年比マイナスで推移。この影響を受け、売上高、営業利益ともに前年同期を大きく下回る結果に。第3四半期以降、国内および米国での売上増を目指す。中国市場は先行きの不透明な状況が続くものと予想

- PMMA/PC2層シート：

前年同期に生産トラブルにより苦戦したスマートフォン向けの販売は、売上高・営業利益ともに改善するも、米中貿易摩擦や、競争激化による販売単価下落等もあり、期初計画値未達。金属調加飾フィルムの落ち込みをカバーするまでには至らず。第3四半期以降は、車載用途など、高付加価値案件の拡大を狙う

■ 今後の見通し

- 主要原材料価格の先行指標となる国産ナフサ価格は、期初想定45,000円/klに対し、上期(1月～6月)実績値は平均43,300円/klと期初想定値を下回った。また、第3四半期(7月～9月)実績値は平均40,200円/klとなり、当面の間、原材料価格は安定して推移するものと予想
- 売上高、営業利益ともに期初の業績予想を据え置き、売上高は前期に達成した過去最高額を上回ると予想
- 米中貿易摩擦の影響による中国市場の減速等による先行き不透明感が残るものの、営業利益は前期比+18.3%、営業利益率6.2%(前期営業利益率5.4%)を予想

	(百万円)	
	2019年3月期 (実績)	2020年3月期 (予想)
売 上 高	28,229	29,000
営 業 利 益	1,521	1,800
営 業 利 益 率	5.4%	6.2%

本資料の作成にあたり、当社は当社が入手可能な情報の正確性や完全性に依拠し、前提としていますが、その正確性あるいは完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。

また、将来に関する記述が含まれている場合がありますが、実際の業績は様々なリスクや不確定要素に左右され、将来に関する記述に明示又は黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に全面的に依拠することのないようご注意ください。

本資料及びその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が、その他の目的で公開又は利用することはできません。